

【城山(城ノ峰)万仏山トレイル】

令和2年8月1日 K.S

この山域は北信州の豪雪地帯にあり、標高が低く藪山で登山道も整備不完全なため、必然的に登山者も極めて少ないところである。しかし城山(城ノ峰)には古くは犬飼城という山城が置かれ、北に位置する小菅山は北信三大修験場の一つであり、万仏山は小菅山との関わりを持つとともに、三十三観音や大日如来の石仏が置かれる信仰の岩山である。この3峰を結ぶ山行は、四季折々の変化を楽しみながら、この地域の歴史や文化を感じることができる魅力的なものといえる。

現在城山までは3本ほどの登山コースがあるが、城山から万仏山までは、無積雪期と冬季に歩かれた記録は散見できるが、記録からは、一部踏み跡があるとはいえ、登山道といえるほどのものではなく、冬季を除けば、藪をかき分けての、ある意味マニアックな山行と呼べるものであった。

今年は例年以上に時間が取れる状況となったため、春に「万仏山南回りコース」と「城ノ峰大清水コース」を拓き、他のコースを幾らか整備した後、以前からの課題であった城ノ峰から万仏山までの登山道整備に取り掛かった。

実は、「南回りコース」と「大清水コース」の登山道作りは、このコースを拓くための布石のようなものであり、まず「大清水コース」から馬曲山までを切り開き、次に「南回りコース」の馬曲乗越から切り開けば効率的な作業ができるのではないかと考えた。実際に始めて見ると、まさにその通りであったが、諸事情や梅雨の長雨によりなかなか思うように進まず、結局曲がりなりにも登山道として利用できるようになったのは、7月末の頃となってしまった。

今回紹介するのは城山から万仏山までのコースであるが、城山までと万仏山より先の小菅山方面や下山コースの案内に関しては別ページを参照していただきたい。

《コース紹介》

(城山←1.30 2.00→万仏山)

城山山頂より北東側の堀切を越え、少し行くと第2の堀切がある、さらに浅い堀切を越え、その先でネマガリダケの藪を南から巻いて再び稜線に戻る。

稜線上は雑木が多いが、南側斜面の多くは植林となっている。

一部稜線上は藪が発達しているため、少し北側の斜面に道が延ばされており、アップダウンはなく片鉾ノ峰まではなだらかな登りが続くという感じである。北東側に展望が少し利くところが1箇所あるが、展望は殆んどない。

片鉾ノ峰から東に稜線を下り、少し登り返してから小ピークの北側を巻いて下っていくと馬曲山への急な登りとなる。

馬曲山の山頂部は展望がなく、さらに細長い上に、標識がないので山頂(太いブナがある)は見落としやすい。道は北側の肩を通っており、意外と藪は少ないが、稜線上は所々ネマガリダケが密生している。ブナ林を下って落ち着いた雰囲気鞍部から少し登り返し、小ピークの北側を巻きながら下ると馬曲乗越で、ここで「南回りコース」に合流する。乗越に至る手前は石が多く、北側斜面はゴーロ状となっている。足場が不安定なので注意して下りたい。

ここより万仏山南峰へ最後の登りとなる。植林を過ぎた先から稜線は岩稜状となり、この辺りから少し展望が利くようになる。特に危険という箇所はないが、北側斜面への転落は致命傷になるので十分注意したい。最後は急斜面のフィックスロープを登れば南峰と展望台の中間地点に飛び出す。南峰から鞍部を下り、登り返せば万仏山山頂である。

